

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

平成23年度

事業報告

財団法人 大阪国際児童文学館

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成 23 年度 事業報告

当財団の新生 2 年が過ぎました。基本的には、前年度から取り組んだ諸事業を継承しながら、より効率的・効果的な運営に努めたところではありますが、限られた人員、少ない財源の中にあっても徒に縮小均衡思考に陥ることのないよう、積極的に幅広く事業を展開してきました。

「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」の運営に関しては、引き続き大阪府および大阪府立中央図書館と緊密な連携・協力のもと、所期の目的であります、移転後の「国際児童文学館」が、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を継承できるよう、当財団として協力するとともに必要な役割を果たしてきました。

大阪府が予定する、旧児童文学館から「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」への移行期間 3 年の満了を間近に控え、当財団としては、未だ将来への展望が見えない中ではありますが、ボランティアや特別専門員などの協力者、関係諸団体はじめ多くの方々からご寄付・ご協力をいただき、大要、事業計画・経営目標を達成し、一定の成果を上げることができたと考えています。

特に、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に関して、被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンを、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団とともに取り組んできたところでもあります。多くの方々からご寄付・ご協力をいただき、本を希望される保育園・幼稚園・小学校などに贈ることができました。被災地の子どもたちへの支援は今後も続ける必要があると考えておりますが、本事業については平成 24 年 3 月末をもって一応の区切りとしました。

また、新公益法人制度については、平成 25 年 4 月 1 日の「一般財団法人」への移行を前提に、準備を進めてきたところでもあります。

個々の事業については、平成 23 年度事業計画にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	23. 5. 20	(1) 評議員の選出について
第2回	23. 6. 24	(1) 平成22年度事業報告について (2) 平成22年度収支決算について (3) 平成23年度補正予算について (4) 評議員の選出について
第3回	24. 3. 23	(1) 平成24年度事業計画について (2) 平成24年度収支予算について (3) 当財団の新公益法人制度移行について

2. 評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	23. 4. 22	(1) 役員の選任について
第2回	23. 6. 10	(1) 平成22年度事業報告(案)について (2) 平成22年度収支決算(案)について (3) 平成23年度補正予算(案)について (4) 役員の選任について
第3回	24. 3. 16	(1) 平成24年度事業計画(案)について (2) 平成24年度収支予算(案)について (3) 当財団の新公益法人制度移行について

3. 役員協議会

回	開催年月日	議事内容
第1回	24. 2. 17	(1) 新公益法人制度移行にかかる基本方針について

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめる。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣する。

- ・実施回数：47回 子ども読書活動支援員派遣事業24回を含む（別掲）
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（7回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（6回）、司書・学校司書（6回）、その他（4回） 計23回

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣する。

子どもの本を楽しむ会（9回）

保護者向き児童文学・絵本講座・フォーラム（7回）

第21回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

平成23年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部障がい福祉室）

第14回はーと&はーと絵本原作コンクール選考委員会（大阪市教委）

第30回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府）、JBBY賞選考会、

メディア芸術デジタルアーカイブ事業検討委員会（文化庁）

2. 本と子どもを結ぶ活動

学校等でのおはなし会や読書活動にかかわるワークショップの開催

(1) 学校等でのワークショップの開催

学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計11件実施した。

中学生（1件）、小学生（4件）、図書館（2件）、少年自然の家（1件）

大阪府立大型児童館ビッグバン（1件）、出雲こども探検隊（1件）

日中韓子ども童話交流2011（於：中国 1件）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会を開催した。（1回）

出演：おはなしポップ

(3) 図書館等でのおはなし会の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。

出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

おはなし会 6回、人形劇+おはなし会 1回

②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会の実施（1回）

出 演：職員、おはなしポップ

③ビッグバンでのおはなし会の実施

大阪府立大型児童館ビッグバンで開催された田島征彦絵本原画展にあわせて、おはなし会を4回実施した。

出 演：職員、おはなしポップ

(4) 作家との絵本作りワークショップの実施

オーストラリアの絵本作家ショーン・タンを招いて絵本作りワークショップを開催した。

オーストラリアの絵本作家ショーン・タンと絵本をつくろう！

・日 時：10月16日（日）13時～16時

・場 所：大阪府立中央図書館大会議室

・参加者：小学生26人 大人32人

・参加費：500円

*後 援：大阪府子ども文庫連絡会

*賛助企業：関西電力株式会社、近畿日本鉄道株式会社、

サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、

株式会社富士通東北システムズ、株式会社富士通マーケティング、

ムサシ・アイ・テクノ株式会社

*子どもゆめ基金助成事業

(5) 図書館、住宅展示場での街頭紙芝居の実施

①むかしのかみしばい 子どもの本をたいけんしよう！！

・日 時：8月6日（土）13時30分～16時

・場 所：大阪府立中央図書館大会議室

・出 演：三邑会・当財団職員

*後 援：大阪府立中央図書館・三邑会

*子どもゆめ基金助成事業

②住宅展示場での街頭紙芝居公演

・日 時：5月8日（土）11時、14時、9月24日（土）11時、14時

・場 所：花博住宅展示場広場

・出 演：三邑会

*共 催：財団法人 大阪住宅センター

(6) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向きイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・日 時：11月6日（日）
- ・定 員：240人（申込者：374人 1.6倍）
- ・参加費：500円
- *協 賛：大阪高速鉄道株式会社、独立行政法人日本万国博覧会記念機構、
阪急不動産株式会社

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3回（自主研修・打ち合わせ研修）
- ・対 象：平成23年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：16名
- ・活動回数：14回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、
大阪府立中央図書館こども資料室（7回）
児童養護施設（1回）、吹田市立山田駅前図書館（1回）
ビッグバン（4回）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：5名
- ・活動回数：2回
- ・活動場所：大阪府立中央図書館（1回）、おはなしモノレール（1回）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 2,052点（前年2,408点） 絵本 398点（533点）
計 2,450点（2,941点）
- ・予備審査：11月11日（金）～14日（月）
- ・本審査：12月3日（土）、4日（日）
- ・表彰式：平成24年3月4日（日）日産グローバル本社 日産ホール
- *協 賛：日産自動車株式会社

Ⅲ 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

○「ほんナビきっず」の開発・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通東北システムズとともに開発し、公開した。

新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：813冊

Ⅳ 子どもの本を通じた国際交流事業

絵本を通して、諸外国と日本の文化の相互理解を深めるとともに、国内外の研究者のネットワーク構築に寄与し、児童文学及び児童文学研究の促進を図る。

1. 国際児童文学研究賞事業

「国際グリム賞」。世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。

平成23年度は第13回授賞式と受賞者の講演会を行った。

- ・日 時：12月11日（日）13時30分～16時30分
- ・場 所：大阪国際交流センター
- ・演 題：明日の夢に向かって 中国児童文学の過去・現在・未来
- ・受賞者：蔣 風（中国）
- ・参加者：94人

*主 催：財団法人 大阪国際児童文学館、財団法人 金蘭会、
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

2. 国際講演会の開催

ことばを超えて ― 絵が語る物語の力

- ・日 時：10月15日（土）13時～16時
- ・場 所：大阪府立中央図書館大会議室
- ・講 師：ショーン・タン（オーストラリア）
- ・参加者：85人
- ・参加費：1,000円

*後 援：大阪府子ども文庫連絡会

*賛助企業：関西電力株式会社、近畿日本鉄道株式会社、
サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、
株式会社富士通東北システムズ、株式会社富士通マーケティング、
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

*子どもゆめ基金助成事業

3. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子ど

もの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

4. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」をホームページで、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① 国際児童文学学会（オーストラリア）
- ② 国際児童図書評議会（カナダ）
- ③ フィンランド児童文学研究所
- ④ ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ⑤ グリム博物館（ドイツ）
- ⑥ スウェーデン児童文学研究所
- ⑦ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑧ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑨ 建国大学 童話と翻訳の研究所（韓国）
- ⑩ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国）
- ⑪ アメリカ議会図書館（アメリカ合衆国） 等

V 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、標記協議会に委員として企画立案に参画するとともに、下記諸事業に講師を派遣する。

①大阪府子ども読書活動推進連絡協議会

「第2次大阪府子ども読書活動推進計画」策定のための会議に出席した。（2回）

②子どもの読書推進活動支援員派遣 大阪府立中央図書館主催

要請のあった機関・組織に対し、講師を派遣し講座を行った。

- ・実施回数：24回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：学校司書（4回）、図書館司書（5回）、高校生（2回）
ボランティアグループ（13回）

VI 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「紀要」で発表するほか、当館のホームページに登載するなど広く普及し活用を図る。

(1) 明治期児童雑誌研究プロジェクト

『少年世界』などの明治時代に出版された児童向け雑誌について、平成 20 年度文部科学省科学研究費助成事業で作成した、明治時代の雑誌の内容細目データを活用しながら外部研究者とともに研究を行った。

- ・研究会（3回 5/22, 10/1, 2/18）
- ・『国際児童文学館紀要』（論文 1 本）

(2) 「明治・大正期における児童出版文化史」の研究

故・南部新一氏（元博文館編集者）旧蔵資料にある巖谷小波作品を中心に、調査研究を外部研究者とともに行った。

- ・研究会（5回 6/26, 7/24, 9/4, 10/1, 2/15）
- ＊独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
23～25 年度

2. 出版企画・展示企画

児童文学・文化振興のため、次のとおり出版・展示事業を実施した。

(1) 「第 27 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話優秀賞一席受賞作品『あやとユキ』
 - ・絵本大賞受賞作品『うみのそこのてんし』
- B L 出版（株）と提携 平成 23 年 12 月刊行

(2) 国際交流事業報告集の発行

- ・2010 年度国際交流事業報告集「アジアの絵本シンポジウム 絵本は国境を越えるー中国語圏の絵本の現在ー」を発行した。
- ・2011 年度国際交流事業報告集「オーストラリアの絵本の魅力 ショーン・タン自作を語る ことばを超えて オーストラリアの絵本作家 ショーン・タンと絵本をつくろう！ふしぎの国の絵本をつくろう」を発行した。

(3) 財団発行資料の販売

「国際児童文学館紀要」や論文集等を販売した。

2010 年度国際交流事業報告集	1 5 冊
2011 年度国際交流事業報告集	2 9 冊
アジアの論文集	9 冊
国際児童文学館紀要	2 1 冊

(4) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務受託

明治大正期の貴重資料のレプリカ、復刻版作成等

- ・「進研ゼミおすすめ本 1000 冊」ベネッセコーポレーションから受託
推奨本の追加・変更 48 冊を選定し、子ども向け紹介文を作成した。
- ・『コドモノクニ名作選 vol. 3～5』ハースト婦人画報社の企画協力

3. 論文集「国際児童文学館紀要」第25号の発行（北村武子記念事業）
論文の公募を実施 論文2本、研究ノート1本を採用
国際グリム賞受賞記念講演録
特別研究員および当財団職員による論文等 3本 計7本掲載
4. 特別研究員制度の活用
財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。
今年度は7名。上記1の共同研究、『紀要』への寄稿等の協力を得た。

VII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

受入件数：図書4,779冊、雑誌3,555冊、その他資料1,021点 計9,355点

VIII 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業その他

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」の管理・運営
- ③ 「日本の子どもの本100選」の管理・運営
- ④ 「本の海大冒険」の管理・運営
- ⑤ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月1回（20日頃）メールマガジンを発行。

登録会員数：787人（平成24年3月末日現在）

2. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) 広報刊行物の発行

財団の1年間の活動状況を報告するレポート「財団法人大阪国際児童文学館
REPORT No.1」を発行した。年1回

3. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

平成23年度実績 96件 1,195,800円

IX 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る —

『いっしょだよ』キャンペーン

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、学校、幼稚園などの施設も壊滅的な被害を受け、子どもたちが読む本や絵本も失われました。そうした子どもたちに本を届けるため、広く一般の皆さま方から寄付金をいただき、本の寄贈を希望される施設等の、対象となる子ども的人数・年齢、希望冊数などにあわせて、本を選び購入し、ブックカバーをつけて送付した。

- ・主 催：財団法人 大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合
毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団
- ・期 間：平成23年4月26日～平成24年3月末
- ・募 金：1,562件 24,735,393円
著者、出版社等からの図書現物寄付 10件 870冊
- ・寄贈施設：339件 保育園（所）、幼稚園、小中学校など
- ・寄贈冊数：19,036冊